

手取川・梯川等大規模氾濫に関する減災対策協議会では、確実な避難に向けた取り組みの一環として、防災力の向上を図るため、手取川大洪水の経験者である語り部に当時の状況を語ってもらうことにより、洪水の恐ろしさについて学ぶ防災教室を実施した。

日 時：平成29年8月1日（火）14：15～14：45
 場 所：能美市防災センター
 参加者：白山市・小松市・能美市・野々市市・川北町の児童約70名
 保護者・関係者含め、全体約90名

高鍬さんプロフィール

川北町中島町に住む方で、元教諭。昭和9年の手取川大洪水を経験されており、各地で貴重な経験を語り部として説明されています。



<講演・高鍬さん>



<講演状況>



<講演状況>

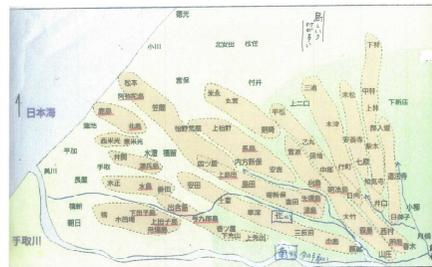
昭和9年 手取川大洪水災害 語り部(高鍬さん)講演内容

はじめ平らな土地でも大雨が降ったら自然と川ができる。
 川には三つの働きがある。



- ①けずる
- ②運ぶ
- ③ためる

川ができると高い土地に人が住むようになり、村・畑ができる。
 低い土地は大雨のたびに大水で地形が変わる。



〇〇島という村が多い

明治時代になって石川県による堤防づくりが始まった。



霞堤の仕組みが取り入れられた

昭和9年7月11日に大変な大水があった。



この年は大雪であった
 大雨が続いた
 がけ崩れが多くおきた